

大正四年六月二十一日第三種郵便物認可 (毎月一四二日發行)

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號六第 卷八十二第

行發日一月六年四和昭

論叢

戸數割の性質 法學博士 神戸 正雄
 勞銀の理論 文學博士 高田 保馬
 マルサスの恐慌論 經濟學士 谷口 吉彦

說苑

近江商人の活躍について 經濟學士 菅野和太郎
 兩圓との關係に就て 經濟學士 堀江 保藏

雜錄

免償價值について 文學博士 高田 保馬
 生産立地理論について 經濟學士 菊田 太郎
 中央と地方の豫算形式 經濟學士 中川與之助
 國民經濟と大都市經濟 經濟學士 大谷 政敬
 大阪市の人口動態 經濟學士 武田長太郎
 佛蘭西國營輸出信用保險 經濟學士 近藤 文二

法令

救護法・股票調査令

附錄

本誌第二十八卷總目錄

(禁 轉 載)

法 令

救 護 法

法律第三十九號 (昭和四年四月一日)

第一章 被救護者

第一條 左ニ掲グル者貧困ノ爲生活スルコト能ハザルトキハ本法ニ依リ之ヲ救護ス

一 六十五歳以上ノ老衰者

二 十三歳以下ノ幼者

三 姪産婦

四 不具發疾、疾病、傷喪其ノ他精神又ハ身體ノ障礙ニ因リ

勞務ヲ行フニ故障アル者

前項第三號ノ姪産婦ヲ救護スベキ期間並ニ同項第四號ニ掲グル事山ノ範圍及程度ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 前條ノ規定ニ依リ救護ヲ受クベキ者ノ扶養義務者扶養ヲ爲スコトヲ得ルトキハ之ヲ救護セズ但シ急迫ノ事情アル場合ニ於テハ此ノ限りニ在ラズ

第二章 救護機關

第三條 救護ハ救護ヲ受クベキ者ノ居住地ノ市町村長、其ノ居住地ナキトキ又ハ居住地分明ナラザルトキハ其ノ現在地ノ市町村長之ヲ行フ

第二十八條 九四六 第六號 一四六

第四條 市町村ニ救護事務ノ爲委員ヲ設置スルコトヲ得

委員ハ名譽職トシ救護事務ニ關シ市町村長ヲ補助ス

第五條 委員ノ選任、解任、職務執行其ノ他委員ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三章 救護施設

第六條 本法ニ於テ救護施設ト稱スルハ養老院、孤兒院、病院其ノ他ノ本法ニ依ル救護ヲ目的トスル施設ヲ謂フ

第七條 市町村救護施設ヲ設置セントスルトキハ其ノ設備ニ付地方長官ノ認可ヲ受クベシ

私人救護施設ヲ設置セントスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第八條 前條第二項ノ規定ニ依リ設置シタル救護施設ハ市町村長ガ救護ノ爲行フ委託ヲ拒ムコトヲ得ズ

第九條 本法ニ定ムルモノノ外救護施設ノ設置、管理、廢止其ノ他救護施設ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四章 救護ノ種類及方法

第十條 救護ノ種類左ノ如シ

一 生活扶助

二 醫療

三 助産

四 生業扶助

前項各號ノ救護ノ範圍、程度及方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 救護ハ救護ヲ受クル者ノ居宅ニ於テ之ヲ行フ

第十二條 幼者居宅救護ヲ受クベキ場合ニ於テ市町村長其ノ哺

育上必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ幼者ト併セ其ノ母ノ救護ヲ爲スコトヲ得

第十三條 市町村長居室救護ヲ爲スコト能ハズ又ハ之ヲ適當ナラズト認ムルトキハ救護ヲ受クル者ヲ救護施設ニ收容シ若ハ收容ヲ委託シ又ハ私人ノ家庭若ハ適當ナル施設ニ收容ヲ委託スルコトヲ得

第十四條 市町村長ハ救護ヲ受クル者ノ親權者又ハ後見人ヲ適當ニ其ノ權利ヲ行ハザル場合ニ於テハ其ノ異議アルトキト雖モ前條ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十五條 救護施設ノ長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ施設ニ收容セラレタル者ニ對シ適當ナル作業ヲ課スルコトヲ得

第十六條 第十三條ノ規定ニ依リ收容セラレ又ハ收容ヲ委託セラレタル未成年者ニ付親權者及後見人ノ職務ヲ行フ者ナキトキハ市町村長又ハ其ノ指定シタル者勅令ノ定ムル所ニ依リ後見人ノ職務ヲ行フ

第十七條 救護ヲ受クル者死亡シタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ埋葬ヲ行フ者ニ對シ埋葬費ヲ給スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ埋葬ヲ行フ者ナキトキハ救護ヲ爲シタル市町村長ニ於テ埋葬ヲ行フベシ

第五章 救護費

第十八條 救護ヲ受クル者同一市町村ニ一年以上引續キ居住スル者ナルトキハ救護ニ要スル費用ハ其ノ居住地ノ市町村ノ負擔トス

第十九條 救護ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ該當スル者ナルトキ

ハ其ノ居住期間一年ニ滿テザル場合ニ於テモ救護ニ要スル費用ハ其ノ居住地ノ市町村ノ負擔トス

一 夫婦ノ一方居住一年以上ナルトキ同居ノ他ノ一方
二 父母其ノ他ノ直系尊屬居住一年以上ナルトキ同居ノ子其ノ他ノ直系卑屬
三 子其ノ他ノ直系卑屬居住一年以上ナルトキ同居ノ父母其ノ他ノ直系尊屬

第二十條 前二條ニ規定スル期間ノ計算ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條 救護ニ要スル費用ガ前三條ノ規定ニ依リ市町村ノ負擔ニ屬セザル場合ニ於テハ其ノ費用ハ救護ヲ受クル者ノ居住地ノ道府縣、其ノ居住地ナキトキ又ハ居住地分明ナラザルトキハ其ノ所在地ノ道府縣ノ負擔トス

第二十二條 第十七條ノ規定ニ依リ埋葬ニ要スル費用ノ負擔ニ關シテハ前四條ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 委員ニ關スル費用ハ市町村ノ負擔トス

第二十四條 第二十一條及第二十二條ノ規定ニ依リ道府縣ノ負擔スル費用ハ救護ヲ爲シタル地ノ市町村ニ於テ一時之ヲ繰替交辨スベシ

第二十五條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ左ノ諸費ニ對シ其ノ二分ノ一以内ヲ補助ス

一 第十八條乃至第二十三條ノ規定ニ依リ市町村又ハ道府縣ノ負擔シタル費用
二 道府縣ノ設置シタル救護施設及第七條第一項ノ規定ニ依

り市町村ノ設置シタル救護施設ノ費用

三 第七條第二項ノ規定ニ依リ私人ノ設置シタル救護施設ノ設備ニ要スル費用

道府縣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ左ノ諸費ニ對シ其ノ四分ノ一ヲ補助スベシ

一 第十八條乃至第二十條、第二十二條及第二十三條ノ規定ニ依リ市町村ノ負擔シタル費用

二 第七條第一項ノ規定ニ依リ市町村ノ設置シタル救護施設ノ費用

三 第七條第二項ノ規定ニ依リ私人ノ設置シタル救護施設ノ設備ニ要スル費用

第二十六條 救護ヲ受クル者資力アルニ拘ラズ救護ヲ爲シタルトキハ救護ニ要スル費用ヲ負擔シタル市町村又ハ道府縣ハ其ノ者ヨリ其ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得

第二十七條 救護ヲ受ケタル者救護ニ要シタル費用ノ辨償ヲ爲スノ資力アルニ至リタルトキハ救護ノ費用ヲ負擔シタル市町村又ハ道府縣ハ救護ヲ廢止シタル日ヨリ五年以内ニ其ノ費用ノ全部又ハ一部 償還ヲ命ズルコトヲ得

第二十八條 救護ヲ受クル者死亡シタルトキハ市町村長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ遺留ノ金錢ヲ以テ救護及埋葬ニ要スル費用ニ充當シ仍足ラザルトキハ遺留ノ物品ヲ賣却シテ之ニ充當スルコトヲ得

第六節 雜則

第二十九條 救護ヲ受クル者左ニ掲グル事由ノ一ニ該當スルト

キハ市町村長ハ救護ヲ爲サザルコトヲ得

一 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村長又ハ救護施設ノ長ノ爲シタル處分ニ從ハザルトキ

二 故ナク救護ニ關スル檢修又ハ調査ヲ拒ミタルトキ

三 性行著シク不良ナルトキ又ハ著シク怠惰ナルトキ

第三十條 第七條第二項ノ規定ニ依リ設置シタル救護施設ガ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違

反シタルトキハ地方長官ハ同項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第三十一條 道府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ左ニ掲グル土地建物ニ對シテハ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ズ但シ

有料ニテ之ヲ使用セシムル者ニ對シテハ此ノ限りニ在ラズ

一 主トシテ救護施設ノ用ニ供スル建物

二 前號ニ掲グル建物ノ敷地其ノ他主トシテ救護施設ノ用ニ供スル土地

第三十二條 昨僞其ノ他ノ不正ノ手段ニ依リ救護ヲ受ケ又ハ受ケシメタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條 本法中町村ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキ者ニ之ヲ適用ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
左ノ法令ハ之ヲ廢止ス
明治四年太政官達第三百號
明治六年太政官布告第七十九號

明治六年太政官布告第百三十八號

明治七年太政官達第百六十二號恤救規則

〔參照〕

明治四年(六月二十日)太政官達第三百號ハ棄兒養育米給與方、同六年(三月三日)太政官布告第七十九號ハ三子出生貧困ノ者(養育料ヲ給與スル件)、同年(四月二十五日)同第百三十八號ハ棄兒養育米被下ハ自今滿十三年ヲ限リトシ及年齡定方ナリ

農業調査令

勅令第九十六號 (昭和四年四月二十三日)

第一條 農業調査ハ昭和四年度ニ於テハ耕地ニ付之ヲ行フ
第二條 前條ノ調査ハ農家ノ經營スル耕地ニ付昭和四年九月一日午前零時ノ現在ニ依リ左ノ事項ヲ調査ス

一 地番

二 種類

三 面積

四 經營農家世帯主ノ住所氏名

五 自作地小作地ノ別

學校、試驗場其ノ他農家ニ非ザル者ノ經營スル耕地ト雖モ前項ニ準ジテ調査ス

第三條 調査ハ實地耕地ニ就キ之ヲ執行スルモノトシ耕地各筆毎ニ之ヲ行フヲ例トス

第四條 府縣知事ハ内閣總理大臣ノ命ヲ承ケ府縣内ノ調査ノ執

法 令

行ヲ指揮監督ス

第五條 府縣支廳長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ管轄區域内ノ調査ノ執行ヲ指揮監督ス

第六條 市町村長ハ府縣知事(府縣支廳長ノ管轄區域内ノ町村長ハ府縣支廳長)ノ指揮監督ヲ承ケ市町村内ノ調査ノ執行ヲ管掌ス

第七條 市町村長ハ調査ヲ執行スル爲府縣知事ノ認可ヲ經テ市町村ノ區域ヲ調査區ニ分割ス但シ特別ノ事情アルトキハ府縣知事ノ認可ヲ經テ一市町村ヲ以テ一調査區ト爲スコトヲ得

第八條 調査事務ノ執行ヲ指導セシムル爲必要アルトキハ府縣及府縣支廳ニ農業調査指導員ヲ置クコトヲ得

第九條 調査事務ヲ執行セシムル爲市町村ニ農業調査員ヲ置ク

第十條 農業調査指導員及農業調査員ハ府縣知事ノ推薦ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

農業調査指導員及農業調査員ハ名譽職トス
第十一條 農業調査指導員ハ府縣知事又ハ府縣支廳長ノ命ヲ承ケ調査事務ノ執行ヲ指導ス

第十二條 農業調査員ハ市町村長ノ指監督ヲ承ケ擔當調査區内ニ於ケル耕地ノ踏査實測、耕地票ノ作成其ノ他之ニ伴フ諸般ノ事務ヲ執行ス

第十三條 農業調査員ハ調査事務執行ノ爲他人ノ土地ニ立入り測量其ノ他ノ調査ヲ爲スコトヲ得

第十四條 農業調査員ハ第二條ニ掲グル事項ノ調査上必要アルトキハ經營農家世帯主又ハ管理者ニ就キ當該耕地ニ關シ報告

第二十八卷 九四九 第六號 一四九

其ノ他資料ノ供與ヲ求ムルコトヲ得

第十五條 農業調査員ニハ別ニ定ムル徽章ヲ交付シ職務執行ノ際之ヲ佩用セシム

第十六條 府縣支廳長及市町村長ハ管内調査ノ結果ヲ取纏メ府

縣知事ノ定メタル期限迄ニ之ヲ府縣知事ニ(府縣支廳長ノ管轄區域内ノ町村長ハ府縣支廳長ニ)府縣知事ハ府縣内ニ於ケル調査ノ結果ヲ取纏メ内閣總理大臣ノ定メタル期限迄ニ之ヲ内閣總理大臣ニ報告スベシ

第十七條 本令中府縣支廳長、町村長ニ關スル規定ハ市制第六

條及第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ市長、區長ニ之ヲ適用シ府縣又ハ府縣知事トアルハ北海道廳又ハ北海道廳長官ヲ、府縣支廳又ハ府縣支廳長トアルハ北海道廳支廳又ハ北海道廳支廳長ヲ、町村又ハ町村長トアルハ之ニ準ズヘキモノヲ包含ス

第十八條 府縣市町村ニ於テ調査ニ附帶シテ其ノ區域ノ全部又ハ一部ニ對シ必要ナル事項ヲ調査セントスルトキハ其ノ事項及方法ヲ具シ内閣總理大臣ノ認可ヲ受クベシ

〔差額〕

明治四十四年(四月六日公布)法律第六十八號市制抄錄

第六條 勅令ヲ以テ指定スル市ノ區ハ之ヲ法人トス其ノ財産及營造物ニ關スル事務其ノ他法令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理ス

區ノ廢置分合又ハ境界變更其ノ他區ノ境界ニ關シテハ前二條ノ規定ヲ準用ス但シ第四條ノ規定ヲ準用スル場合ニ於テハ關

保アル市會ノ意見ヲモ徵スヘシ

第八十二條 第一項乃至第三項

第六條ノ市ヲ除キ其ノ他ノ市ハ處務便宜ノ爲區ヲ劃シ區長及其ノ代理者一人ヲ置クコトヲ得

前項ノ區長及其ノ代理者ハ名譽職トス市公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ市長ノ推選ニ依リ市會之ヲ定ム
内務大臣ハ前項ノ規定ニ拘ラス區長ヲ有給吏員ト爲スヘキ市ヲ指定スルコトヲ得